

日本経済新聞

4月29日

金曜日

日本経済

ふるさと納税 わがまちの逸品

新潟県と佐渡市が2023年の世界文化遺産登録をめざす佐渡島の金山(佐渡市)。政府は2月、国連教育科学文化機関(ユネスコ)に推薦した。佐渡市のふるさと納税では、返礼品に金山関係の逸品が並ぶほか、寄付金の使途は世界遺産推進基金への積み立てや登録後の文化遺産の保護事業に充てるよう指定できる。

佐渡市は寄付金の活用メニューの一つに「世界遺産登録応援コース」を設けている。文化審議会が推薦候補に佐渡島の金山を選んだ21年12月の件数は前年同月比46%増の408件に増えた。22年1月以降も大幅増が続き21年度全体でも1・9倍の1491件になった。ユネスコへの推薦決定を巡り知名度が高まったことが大幅増につながって

金山ゆかりの品々

(新潟県佐渡市)

例えば、江戸時代に金を発掘する際に使っていた大きな石臼の形をしたもなかや、もなかの下部に小判型のチョコをしのばせたセット。金山から産出する鉄分を非常に多く含んだ鉱物である無名異を原料にした陶器「無名異焼」などが並ぶ。佐渡島の外縁部に発達した海岸段丘の棚田で作られた棚田米も返礼品だ。佐渡島の気候は夏は涼しく、冬は温暖だ。時間をかけて熟すコシヒカリは、甘みやおいしさが増した佐渡米となる。佐渡金山で熟成した日本酒セットもある。金山は、完全遮光環境で年間の温度が約10〜11度と安定しており、日本酒の熟成に最適な環境だ。「佐



佐渡金山で貯蔵して造られた尾畑酒造の純米酒

世界遺産への挑戦 応援

渡金山貯蔵 純米酒・金箔入り大吟醸「金の道」720ミリ、2本セット(寄付額2万5000円)のうち1本は金山での貯蔵を含め、ゆっくり熟成された逸品だ。醸造元の尾畑酒造(佐渡市)の尾畑留美子専務は「熟成によって深み、複雑さ、まろやかさが増したミステリアスな味わい」と説明する。観光資源は佐渡金山だけでなく、トキ・佐渡おけさ・鬼太鼓・能・カンゾウの花など多彩だ。グイピングやトレッキング、釣りなどのアウトドアに、海の幸や山の幸、果樹も楽しめる。現在、佐渡島と本土を結ぶ唯一の公共交通である佐渡汽船(佐渡市)乗船券の支払いに利用できるクーポン券もある。渡辺竜五市長は「佐渡金山は江戸時代の日本経済を支えた。多くの人に関心を持っていただき、ふるさと納税を通じて世界遺産への挑戦を応援してほしい」と強調する。(新潟支局 橋本慎一)

信越